

NEWS RELEASE

令和4年8月22日

独立行政法人日本スポーツ振興センター

広報室

PFI方式による「新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業」の 民間事業者を選定しました

令和4年8月22日、独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC：JAPAN SPORT COUNCIL）は、新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業について、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」（平成11年法律第117号）第8条第1項の規定に基づき、民間事業者を選定したので、同法第11条第1項の規定により結果を公表します。

落札者：Scrum for 新秩父宮

代表企業：鹿島建設株式会社

構成企業：三井不動産株式会社、東京建物株式会社、株式会社東京ドーム

協力企業：株式会社松田平田設計、株式会社読売新聞東京本社、

日本テレビ放送網株式会社、エイベックス・エンタテインメント株式会社、

株式会社ニッポン放送、ソフトバンク株式会社、鹿島建物総合管理株式会社、

ALSOK 常駐警備株式会社、株式会社東京ドームファシリティーズ、

東京不動産管理株式会社

入札結果概要

入札参加者 (参加表明順)	技術評価点 (400点)	価格評価点 (100点)	総合評価点 (500点)	総合 順位	入札金額(円) (税抜き)
新秩父宮 STTTAR グループ	277.43	56.66	334.09	2	22,574,436,000円
新秩父宮ラグビー 場（仮称）事業 推進グループ	282.62	31.37	313.99	3	35,750,636,958円
Scrum for 新秩 父宮	297.62	84.29	381.91	1	8,181,818,182円

技術評価点の内訳、審査講評及び入札結果に関する詳細資料は、後日下記ホームページ上で公表する予定です。

<https://www.jpnsport.go.jp/corp/chotatu/tabid/1367/Default.aspx>

落札者の入札金額内訳（税抜き）

（単位：円）

入札金額	8,181,818,182円
施設整備費	48,920,000,000円
スポーツ博物館の維持管理費	420,610,089円
運営権対価	41,158,791,907円

（入札金額＝「施設整備費」＋「スポーツ博物館の維持管理費」－「運営権対価」）

■ 芦立理事長のコメント

この度、日本スポーツ振興センターが管理・運営しております秩父宮ラグビー場の移転整備に向けて、PFI方式により民間事業者を選定いたしました。

今回の事業は、今後の日本のラグビー発展の観点からスポーツ庁が設置した「ラグビーの振興に関する関係者会議」における議論などを踏まえ、スポーツ庁とも連携をしながら具体的な検討を進めてきたものです。国の施設としては初めてとなるPFI事業のBT+コンセッション方式を採用したものであり、将来の運営を見据えて当初から民間のノウハウや創意工夫を最大限活用し、ラグビー競技の利用を最優先としつつ、PFI事業者の提案による多様な事業や質の高いサービスの提供が期待されます。

本件の入札においては3グループからの提案がありましたが、いずれの提案も積極的かつ意欲的な魅力のある提案であり、各グループに心からの敬意を表すとともに、審査にあたっていただきました有識者委員会の委員の皆様には感謝申し上げます。

秩父宮ラグビー場は、戦後間もない昭和22（1947）年にラグビー関係者の熱意により建設され、以後、長く我が国のラグビーの聖地として親しまれてまいりました。

新秩父宮ラグビー場（仮称）は、現在の場所から北側に移転し、国立競技場の隣に整備される計画となっております。これまでの秩父宮ラグビー場の歴史を引き継ぐとともに、東京都が掲げる神宮外苑地区のまちづくりの方針に沿って、神宮外苑地区市街地再開発事業を一体となって進めている他の再開発事業関係者とも連携しながら、賑わいあふれるスポーツ・文化・交流のまちの形成や、緑豊かな景観の創出に寄与できるよう、整備を進めてまいります。

今後、今回選定されました民間事業者と連携しながら、提案された事業内容が着実に推進され、これまで以上に多くの皆様に親しんでいただけるラグビー場となるよう引き続き取り組んでまいります。

【完成イメージ図】



(施設名称は仮称)

事業提案段階での完成予想イメージパースであり、実際のものとは異なる可能性があります。また、完成イメージ図を無断で使用することはできません。報道用に使用される場合には、日本スポーツ振興センター広報室にお問い合わせください。

【概要】

敷地面積	I 期工事完了時：約 34,428 ㎡ II 期工事完了時：約 43,466 ㎡
建築面積	II 期工事完了時：約 26,056 ㎡
延床面積	I 期工事完了時：約 68,843 ㎡ II 期工事完了時：約 70,349 ㎡
収容人数	約 15,547 人（ラグビー大会時） 約 20,547 人（イベント時）
主要構造	柱 RC 造・梁 S 造
階数	地上 7 階、地下 1 階
最高高さ	約 46.15m
供用開始予定時期	I 期：2027 年 12 月末予定 II 期：2034 年 5 月末予定
その他	ZEB Ready 認証取得予定 太陽光発電創エネルギー量：1,000kW 大型映像装置の大きさ：50m×12m（1 面）、16m×9m（2 面） スポーツ博物館を併設（約 2,283 ㎡）

※記載内容は、事業提案に基づく内容であり、実際の設計・施工段階で変更となる可能性があります。

「新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業」に係る入札手続きの概要

標記については、令和 4 年 1 月 7 日に民間事業者の募集を開始し、以下の手続きを経て選定を行いました。

1. 事業名称

新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業

2. 事業内容

P F I 法に基づき、民間事業者が自らの事業提案書をもとに施設の設計、建設を行った後、J S C に所有権を移転する B T (Build Transfer) 方式とし、運営・維持管理については、J S C が事業者に対して、公共施設等運営権を設定する公共施設等運営権方式（コンセッション方式）により実施

3. 事業期間

施設整備期間：特定事業契約締結日から事業提案書に記載された期間

運営・維持管理期間：I 期の運営開始日から運営権設定日の 30 年後の応当日の前日まで

※ I 期供用開始：遅くとも令和 10（2028）年 4 月 1 日には I 期供用開始

4. 事業の実施

落札者は、特別目的会社を設立し、事業契約を締結及び事業を実施

5. 入札手続等

- a) 入札説明書に定める参加資格要件の充足を確認する「資格・実績の確認」と、事業提案を評価する「提案審査」の 2 段階で審査を実施
- b) 「提案審査」においては、提案内容が要求水準を満足しているか否かを確認する「必須審査」及び事業提案が優れた提案か評価基準に基づき審査を行う「加点審査」を実施
- c) 「提案審査」の得点と入札価格をもとに総合評価を実施し、入札価格が予定価格の範囲内である者のうち、総合評価点が最も高い者を落札者に決定

6. 入札スケジュール

入札公告	令和 4 年 1 月 7 日
参加表明書の提出期限	令和 4 年 2 月 21 日
競争参加資格の確認結果の通知	令和 4 年 3 月 11 日
事業提案書の提出期限	令和 4 年 6 月 1 日
開札、落札者の決定	令和 4 年 8 月 22 日

「新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業」の 経緯及びビジョン・コンセプトについて

1. 経緯

独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「JSC」という。）では、令和4年で築75年を迎える秩父宮ラグビー場について、施設の老朽化が著しく、耐震補強への対応が大きな課題となるとともに、ユニバーサルデザインの導入や多様化するニーズへの対応も求められていることから、神宮外苑地区市街地再開発事業の一環として新秩父宮ラグビー場（仮称）を整備することとし、スポーツ庁や公益財団法人日本ラグビーフットボール協会（以下「JRFU」という。）等の関係者と整備に当たっての基本的考え方を協議の上、新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業を推進してきました。本事業の経緯は以下のとおりです。

- 平成25年6月 東京都が「神宮外苑地区地区計画」を決定
- 平成27年4月 東京都とJSCを含む関係権利者が「神宮外苑地区まちづくりに係る基本覚書」を締結
- 平成30年11月 東京都が「東京2020大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」を策定
- 令和2年2月 JSCを含む関係権利者が「神宮外苑地区公園まちづくり計画提案書」を提出
- 令和3年1月 スポーツ庁主催「ラグビーの振興に関する関係者会議（第3回）」において「秩父宮ラグビー場の移転整備の基本的考え方」を決定。我が国のラグビーを象徴するスタジアムとして国際大会の基準を踏まえたラグビー場を整備することや、全天候型のラグビー場を整備すること、PFI事業/BT+コンセッション方式により整備することなどの方針が示され、スポーツ庁と連携し具体的な検討を進めることとされた。
- 令和3年6月 JSCが「新秩父宮ラグビー場（仮称）基本計画」を策定
- 令和3年7月 JSCを含む関係権利者が「神宮外苑地区再開発等促進区を定める地区計画企画提案書」を提出
- 令和3年9月 JSCが「新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業」の実施方針を公表
- 令和3年12月 JSCが「新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業」を特定事業として選定
- 令和4年1月 JSCが「新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業」の民間事業者を募集
- 令和4年3月 東京都が「神宮外苑地区地区計画（変更）」都市計画決定を告示

2. ビジョン・コンセプト

新秩父宮ラグビー場（仮称）については、「新秩父宮ラグビー場（仮称）基本計画」において「スポーツの力」で未来を育てるスタジアム」というビジョンの下、以下の4つのコンセプトの実現を図ることとしています。

<ビジョン>

「スポーツの力」で未来を育てるスタジアム

～人々の生きがいを創出し、持続可能で活力ある社会を育む～

<コンセプト>

1. 我が国のラグビーを象徴するスタジアム

ラグビーの「聖地」として親しまれてきた秩父宮ラグビー場の歴史を次世代に継承し、これからもラグビーを愛するすべての人と共に歩み続け、ラグビーをプレーする人、みる人、ささえる人にとって快適な施設として、ラグビーの魅力を引き出すことができるスタジアムを目指す。

2. 様々なシーンに対応できる誰もが心地よいスタジアム

ラグビーの試合がない日でも他のスポーツ競技や各種イベントなど様々な用途に対応が可能で、主催者にとって機能的であり、且つユニバーサルデザインに配慮するなど共生社会にふさわしい計画とし、誰もが使いやすい施設とする。また、神宮外苑地区のスポーツクラスターの形成やにぎわいの創出に寄与し、人々が集い、交流が生まれ、何度でも訪れたいような都市型の新しいスタジアムを目指す。

3. 持続可能性に配慮した未来を紡ぐスタジアム

環境負荷の低減、リサイクルの推進など、施設のライフサイクルを通して持続可能性に配慮した取組を積極的に推進し、時代の変化に対応しながら社会や地域に貢献する未来志向のスタジアムを目指す。

4. スポーツの多様な価値を発信するスタジアム

文化交流施設としてスポーツミュージアムをスタジアム内に設置するなど、スポーツに関する深い学びを支援し、知的な刺激や楽しみを分かち合う機会を提供する。また、心身の健康の保持増進に加え、スポーツ・インテグリティや国際交流による相互理解の推進などスポーツを通して得られる多様な価値を広く国民に発信し、スタジアムに足を運ぶことで「スポーツの力」、スポーツの可能性を感じることができるスタジアムを目指す。

3. 参考

○「秩父宮ラグビー場の移転整備の基本的考え方」

https://www.mext.go.jp/sports/content/20210209-spt_sseisaku01-000012742_2.pdf

○「新秩父宮ラグビー場（仮称）基本計画」

<https://www.jpnsport.go.jp/corp/Portals/0/images/contents/others/kihonkeikaku.pdf>

○「新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業」の実施方針

<https://www.jpnsport.go.jp/corp/chotatu/tabid/1378/Default.aspx>

○「新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業」の民間事業者を募集

<https://www.jpnsport.go.jp/corp/Tabid/1554/Default.aspx>